

グラントワ応援団通信

平成26年
1月25日発行
第36号

書籍と花器の寄贈をいただきました

ボランティア事務局長 高橋 和男

昨年末、京都府は長岡京市にお住まいの三村様よりダンボール十六箱の書籍と花器がグラントワの私宛に届いた。ことの発端は昨年初秋の午後、アテンダントのMさんが「遠来のお客様より、グラントワの方にお話を伺いたいとの申し出がありますが如何でしょうか」とのこと、私が対応させていただいた。お客様は眼鏡の良く似合う中年の女性の方で、お話の趣旨は次のようなことであつた。

此れ迄何度か石見美術館の企画展に来ており、毎回感動していること、また館内を散策すると何時も美しい花が生けてあって「癒やされる」し、自分はグラントワの大ファンであること。現在、自宅の片付けをしており、書籍と花器の処分を考えているが、その一部をグラントワへ寄贈したいのですが、との申し出であつた。

花器については生花ボランティアリーダーから、補充の要望も出ていたし、書籍についても個人的に興味もあつたので二つ返事で快諾し、早速、館長とサービス課長に三村様のお気持を報告した。届けられた花器は磁器を中心にガラスと陶器大小の20点、書籍は民話・小説・事典に写真集の90冊。

とりわけ歌舞伎に関する豪華本と写真集が書籍の半分を占めているのには圧倒された。今後ともにボランティア室にて私が責任もつて管理して貸し出しもし、三村様のご厚意を体してボランティアの皆さんには是非活用していただきたい。

平素からのボランティア各位の諸活動と職員の「おもてなし」の心遣いが、書籍と花器の寄贈という形で具現化されたことに、事務

局として感謝の気持ちで一杯である。



美術館へ行こう

イベント・ボランティア 城市恵子

平成二十五年十一月二十三日、広島県立美術館・縮景園へのボランティア研修会に行ってきました。

広島にはよく出かけますが、ショッピングや映画が主でなかなか美術館へ足が向かず、また『シャガール展』だったこともあり参加を決めました。

シャガールと申しましても造詣が深いわけでもなく、『パリオペラ座の天井画』一点目的でしたが、やはりやはりそれだけではな

った！
ステンドグラス・モザイク画など 独特の色彩・幻想的な作品の数々に時間のたつのも忘れて見入ってしまいました。

やはり美術館はいいなあ……

しっかりと心の栄養をいただいいてお隣の縮景園。ちょうど紅葉が見ごろで天候にも恵まれ、ほっこりと散策を楽しみました。
全般的行程、帰りの車中のお土産付きクイズなど企画・準備してくださりました皆さまありがとうございました。



広島県立美術館・縮景園

2013/11/23

広島交響楽団第21回島根定期演奏会

三月二十一日(金・祝)

チエロ：宮田 大
指揮：広上 淳一
大庭 明博

情報発信ボランティア

演奏曲目

● モーツァルト：「フィガロの結婚」 序曲

オペラ作品に優れた作品を数多く残した作曲家はヴェルディとモーツァルトです。「フィガロの結婚」は今東西最も完成度の高いオペラ作品と言われている。序曲はコンサートの一曲目としてもよく採り上げられます。開幕を告げる僅か4分程の音楽が、オペラ全体の雰囲気・内容をよく表しているいかにもモーツァルトらしい曲です。

ポップスと違いクラシックの楽曲は、聴き慣れていませんと、声楽曲など以外は歌詞がないわけですし、わかりにくく感じます。でも繰り返しして何

度も聴いてみると、少しずつ音楽を実感出来るようになるものと思えます。ワクワク・ドキドキ感に満ちた作曲時30歳のモーツァルトの躍動が感じられる佳曲です。

● シューマン：チェロ協奏曲

「協奏曲」は独奏楽器とオーケストラのための曲です。一番多い独奏楽器はやはりピアノとヴァイオリンで、「ピアノ・コンチェルト」なんて言い方もします。チェロ協奏曲は曲数が少なく、有名なものはドヴォルザーク、ハイドゥンそしてシューマンやエルガーの作品でしょうか。

シューマンは協奏曲を3曲(ピ

アノ、ヴァイオリン、チェロ)作曲していて、何れも彼独特のロマンスの香り、美しい旋律と憂愁を感じることが出来ます。チェロ協奏曲は3つの楽章が休みなく続けて演奏され、ソリストには高度な演奏技術が要求されますので、現今、人気と実力を兼ね備える若手演奏家の宮田大さんがどう弾かれるか注目されます。

● ベートーヴェン：英雄交響曲

交響曲の名曲シリーズと言われるものには標題のあるものが多くあります。シューベルト『未完成』、ドヴォルザーク『新世界』、チャイコフスキー『悲愴』などです。ベートーヴェンには『英雄』『運命』『田園』そして『合唱』があります。テレビなどメディアで耳にすることもあり、聴き慣れているようでも印象的で聴きどころの多い魅力的な交響曲が揃っています。

『英雄』はベートーヴェンの第三交響曲で、ハイドンやモーツァ

ルトの影響を克服した傑作です。ナポレオンを評価し讃美していたベートーヴェンが、献上しようとして作曲しましたが、ナポレオンの皇帝即位で、総譜の表紙を破り捨てたというような逸話が幾つか残っているようです。結局、英雄とはベートーヴェン自身のことになったのかもしれませんが、演奏時間も約50分を要する力強く壮大な音楽は、正に『英雄』という標題に相応しいものだと思います。

終わりに、第二楽章は葬送行進曲です。昨年12月の辻井伸行さんのピアノ・リサイタルでも、シヨパンのピアノ・ソナタ第2番第3楽章が葬送行進曲でしたので、ご記憶の方も多いと思います。大作曲家それぞれの葬送行進曲が楽しめますね。

「伝統芸能を継ぐということ」

情報発信ボランティア 二浦圭子

「ととさんの名は十郎兵衛 か
かさんはお弓と申します」という
浄瑠璃の一節、耳にされた方も多
いのではないかと思います。これ
は傾城阿波の鳴門のおつるのセリ
フです。

益田には古くから伝わる人形浄
瑠璃があります。「糸あやつり人
形」です。県の無形民俗文化財に
指定されている伝統芸能です。糸
あやつり自体、全国的にも珍しい
のですが、昔からの形態をそのま
ま伝えているのはここ益田しかあ
りません。昨年はグラントフにて、
アジア系操り人形劇フェスティバ
ルが開催され、他にもしまね映画
塾で取り上げて下さったり、NHKの
番組「俳句王国が行く〜益田市」
でも紹介して頂きました。この糸
あやつり人形ですが、今から12
7年ほど前、明治20年頃この地
に伝えられました。人形は約11
7年前に作られたものを今でも使
っています。人形の胴体に巻かれ

ている明治の山陰新聞や大阪毎
日新聞を見た時、そして精巧で
美しいかしらの数々を眺めてい
る時などは、過去にタイムスリ
ップしたような感覚を抱きます。
一体何人の方々が、どのような
思いで人形を遣い、今日まで継
承してきたのか、いろんな想像
が頭をよぎります。

「益田系操り人形」は保持者
会によって継承されています。
私はこの会に入ってきた6年目、
分からないことばかりです。け
れども、もしあなたの生きがい
はと尋ねられることがあれば、
即答で「糸あやつり人形です」
と答えるほど、好きです。糸あ
やつりをしている時は、普段の
生活の事など全て忘れ、芸に没
頭しています。
タイトルを「伝統芸能を継ぐ
ということ」とさせて頂きました
たのは、私の頭の片隅にいつも
燦っていないながら、なかなか答え

の見つからぬ間이었다からです。
これまで、いろんな役をさせて頂
きました。どうも腑に落ちない。
いつも何かしらモヤモヤしている
状態でした。そんな折です。「伊
達娘恋の非鹿子 八百屋お七の
段」のお七の役を頂きました。同
時に、これまでとは違う演出をし
てみようということにもなりまし
た。それは今の時代、今のメンバ
ーだからこそ出来る演出であろう
と思えました。ただお七は私にと
って遣ったことのない役。私にこ
の役が務まるだろうかと思いまし
た。舞台というのは一人で作る
のではありません。皆で一緒に作
り上げてこそ良いものが出来る。
私は一心に稽古に励みました。そ
んな時です、ふと思ったのは。伝
統を継ぐとは、こういうことかも
しれないと。

私は三つの事を思いました。一
つは、先代の方々の技や人形に注
いできた思い、心を継いでいくこ
と。それからお客様を大切にす
ること。そしてもう一つ、後継者
を育成していくこと。後継者は言
うまでもないことですが、見に来て

下さるお客様がいらっしやんな
いと、伝統芸能も絶えてしまっ
ことでしょう。その為に、お客
様に喜んで頂けるようなお芝居
が出来よう技術を磨いていく
ことは勿論のこと、時代に合わ
せた見せ方の工夫も必要なのだ
と思います。早急な課題は、や
はり後継者不足になってしまっ
のですが。

最後に、舞台は役者だけでな
く、お客様やスタッフの方々が
一体となった時、素晴らしいも
のが出来るかと思っております。
この伝統芸能を是非皆さま



ワールド神楽 靴袋作りに参加して

フロント・ボランティア

奥田 文子

十一月二・三・四のワールド神楽・靴袋作りに参加させて頂き、とても楽しい一時をすごさせて頂きました。どのように使って下さるのかわかりませんが、三日間、フロント・スタッフとして参加させて頂き、さまざまに喜びの言葉を耳にしてとても良い気分にならせてもらいました。靴袋作りに誘って下さった島田さんにとっても感謝しています。また、こんな新しいアイデアのボランティア活動に声掛けしていただける様になんばりたいとおもいます。ありがとうございます。
(注：機敷席用の靴袋を10名のボランティアの方で製作されました。)

「チケットの抽選風景」です。そして、番号が読み上げられます。

先日 開催された「辻井伸 一枚一枚慎重に 選ばれます 行コンサート」の事前抽選会を取材しました。 大変 神経と時間のかかる 仕事です。手袋をするのは、多くの講義室で実施されました。数の角で、手を切らないためです。千枚の応募ハガキからS席の 応募者が、定員をわずか超えた当選者 約900名を選ぶもの ときは、落選者を選びます。

です。抽選箱に 応募用紙がランダムに入れられ、良く掻き混ぜられます。2名の立会人の見守るなか、手袋をした係り担当者が、無作為にハガキを選び

(取材 飯塚)

* 昨年 1月9日

10日に開催された

「室町フェアー」& 「文化を育むIN益 日」のイベント



*写真上は、抽選会の風景。左は、あしがきの雪景色。

あ と が き

新年明けまして おめでとうございます。年末から大変寒さが続いていましたが9日には市内で5センチの降雪があり、寒さの中の新年でした。 玄関の「大蛇像」は雪をあぶりしました。つい「寒かったでしょう、正月にはおとそいたただきましたか？」と声をかけたくなりました。ところで、今年は平成26年ですが、昭和ですと89年となります。年齢など数えるにはこれが楽なことがあります。昭和9年生まれば91歳。昭和39年生まれば81歳。昭和59年生まれば61歳。昭和79年生まれば41歳。昭和99年生まれば21歳。今年は大正10年となります。高齢となりますがこの1年が大切です。元気で楽しい出会いの年でありますように。

情報ボランティア

飯塚哲也